

参考資料

分類名〔病害虫〕

参 28	光反射資材の敷設による花き類生産施設における アザミウマ類の侵入抑制効果（追補）
------	---

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

施設開口部への光反射資材の敷設によって施設内へのアザミウマ類の侵入を抑制することができる。現地において敷設から1年以上経過した光反射資材においても抑制効果が示されたことから、設置後少なくとも1年間はアザミウマの侵入を抑制することができる。

〔 普及対象：施設花き生産者
普及想定地域：県内全域 〕

1 取り上げた理由

アザミウマ類は葉・花卉・果実などに被害を及ぼす害虫である。花き類は観賞用の品目であり、葉・花卉への被害は外観品質へ直接影響を及ぼすため、花き類における経済的被害許容水準は他の食用の園芸品目と比べて低くなる。そのため、防除対策として、アザミウマ類の侵入抑制対策が最も重要となる。普及に移す技術第98号参考資料において、ハウス開口部への光反射資材の敷設によってアザミウマ類の侵入抑制効果が得られることを示した。

そこで、現地生産圃場にて敷設から1年以上経過した資材においても防除効果が認められたため、参考資料とする。

2 参考資料

(1) 施設開口部への光反射資材の敷設はアザミウマ類の侵入抑制効果を示す。侵入抑制効果は敷設後1年経過しても維持される（図1、図2）。

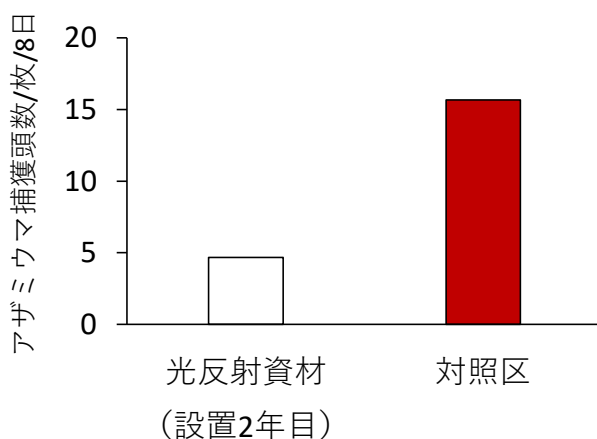


図1 設置2年目の光反射資材によるアザミウマ類の侵入抑制効果（令和5年）

注1) カーネーション生産者の施設を用いて試験を実施した。試験区、対照区それぞれ、ハウス内の側面6か所に、開口部と並行に青色粘着板を設置し、開口部に面した粘着面に誘殺されたアザミウマ類を計数した。青色粘着板は令和5年7月28日～8月4日まで8日間設置した。

注2) 現地生産者ほ場1地点での値。光反射資材は令和4年に敷設した。

3 利活用の留意点

(1) 光反射資材の設置方法は関連する普及に移す技術（イ）を参照する。また、光反射資材は風で飛ばされないように防草シート固定用ピンなどで地面にしっかりと固定する。

参考資料 28 光反射資材の敷設による花き類生産施設におけるアザミウマ類の侵入抑制効果（追補）

- (2) 光反射資材の敷設による侵入抑制と青色粘着板の設置による捕殺を組み合わせることで、施設内におけるアザミウマの発生を抑制することができる（図3）。しかし、光反射資材は設置初年目でも侵入を完全に抑制することはできない（図4）ことや青色粘着板は飛翔する成虫のみ捕殺可能であることから、アザミウマ類を対象とした薬剤散布を適宜行う必要がある。
- (3) 試験に用いた資材と価格（税抜き）は令和6年1月現在以下の通りである。デュポン™タイプック®400WP（幅1.5m×100m）24,600円
- (4) 光反射資材による侵入抑制メカニズムは、光反射シートによって太陽光が下方から反射され、昆虫の正常な飛翔が妨げられて落下する「背光反応」によるものと考えられている。
（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8246）

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間
昆虫の寄主選択機構に着目した総合的害虫管理技術の開発（令和元年～令和5年）
- (2) 参考データ



図2 設置2年目の光反射資材（令和5年）
注1）撮影地は図1の試験を実施した現地生産者ハウス

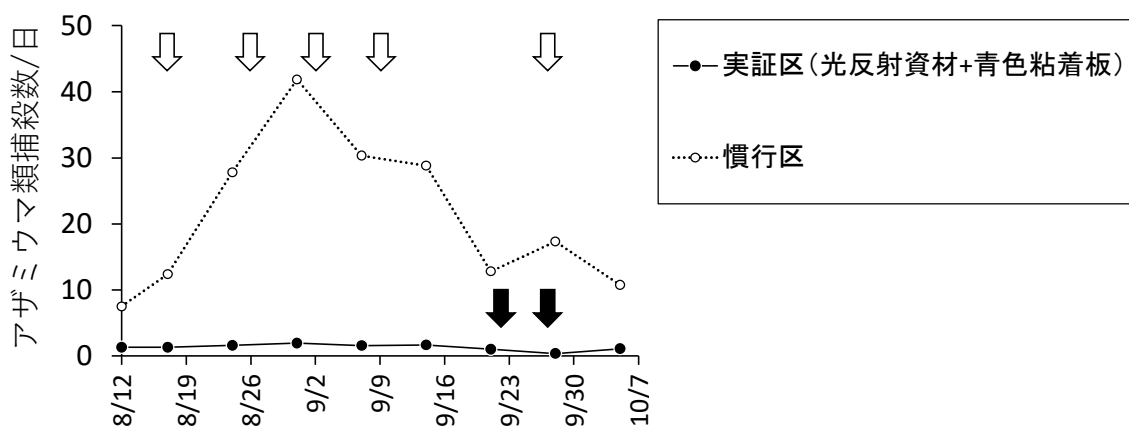


図3 設置2年目の光反射資材による侵入抑制と青色粘着板による成虫の捕殺を組み合わせた現地生産施設におけるアザミウマ類の発生推移（令和4年）

注1) 普及に移す技術第98号参考資料「光反射資材の敷設または赤色ネットの展張と青色粘着板の設置による花き類生産施設におけるアザミウマ類の密度抑制」より抜粋

注2) 試験はカーネーション生産者の栽培施設において実施した。実証区は施設開口部に幅1.5mの光反射資材を敷設（設置日：令和3年9月）し、施設内部に青色粘着板を400枚/10a相当設置した。慣行区は実証区近傍の施設にて、生産者慣行管理で栽培した施設で調査した。実証区、慣行区ともにほ場内の3地点に青色粘着板を設置し、アザミウマ類の捕殺数を調査した。

注3) 白抜き印の矢印は慣行区においてアザミウマ類に対して適用登録を持つ農薬を散布した日を示す。

注4) 黒塗りの矢印は実証区においてアザミウマ類に対して適用登録を持つ農薬を散布した日を示す。

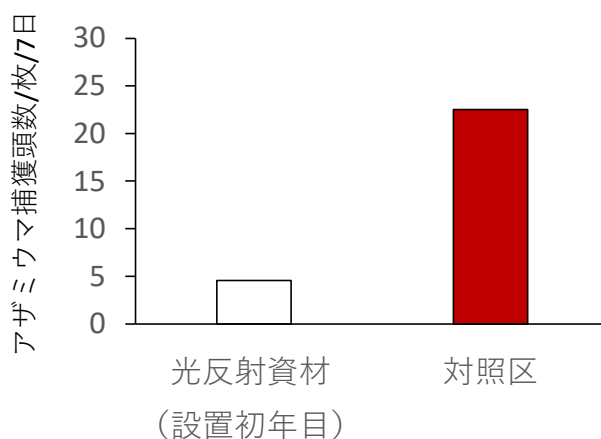


図4 設置初年目の光反射資材によるアザミウマ類の侵入抑制効果（令和4年）

注1) カーネーション生産者の施設を用いて試験を実施した。試験区、対照区それぞれ、ハウス内の側面6か所に、開口部と並行に青色粘着板を設置し、開口部に面した粘着面に誘殺されたアザミウマ類を計数した。トラップは令和4年8月25日～9月1日まで7日間設置した。

注2) 現地生産者ほ場3地点の平均値。光反射資材は令和4年に敷設した。

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

(イ) 施設栽培における光反射資材の効率的な設置方法と微小害虫の施設内侵入抑制効果（第84号参考資料）

(ロ) 光反射資材の敷設または赤色ネットの展張と青色粘着板の設置による花き類生産施設におけるアザミウマ類の密度抑制（第98号参考資料）

ロ その他 なし

(4) 共同研究機関 なし